

# 松本オフィス通信

## 学生奮戦記！

### 社会福祉学部社会福祉学科 3年 赤羽志保

私がこの日本福祉大学に入学し、気付けばもう3年生の秋を迎えました。

まず今の私の「生活」。私は社会福祉士と保育士の資格取得を目指している為、卒業単位とは別に保育士に必要な単位の取得も必要になり、一日の講義数は格段に増えました。そんな生活の中で家事やアルバイト、ピアノのレッスン、サークルへの参加をこなすのは厳しいですが、やるべき事に優先順位をつけ、講義の空き時間を上手く活用することで上手く成り立っています。それは私だけの力ではなく、家族や友人の理解と協力があるからです。

また「責任」を意識するようにになりました。今までは先輩任せにしていたことも、部活やサークルをまとめる存在になった今は私の役割です。それを痛感したのは「長野県人会」での会長としての立場でした。引き継ぎ当初は前年通りに活動するものだと思っていま

### 目次：

学生奮戦記	1
教育実習	1
学長日誌	1
あなたの町の高校訪問	2
地域連携 -加茂ゼミ-	2
私の仕事	3
福祉の現場から	3
安曇野ちひろ美術館	4
インフォメーション	4



した。しかし実際には行事の計画の他に、会員への連絡調整、広報の取材、就職相談会の開催、大学祭への出店準備など、会長としての役割が多く存在することを知り、責任を強く意識するようになりました。責任感を持つと仕事を一人で抱え込みがちですが、県人会の顧問の職員の方や他の役員のサポートもあり、分担しながら活動しています。様々な事柄に挑戦しながら思うことは「一人」との関わりの大切さです。誰かの理解や協力がなければ成し遂げられない事の多さを改めて感じ、周りの人々への感謝の気持ちを大切に過ごしていきたいと思います。  
(塩尻志学館高校出身)



健康科学部理学療法専攻  
2年 加藤秀樹

入学してから、大学というところはたくさん「新しい」に出会える場所だと知りました。友達はもちろん、サークルを通して新しい事に挑戦し、自分の可能性が広がりました。他にも社会人野球に参加し、学外の人とも交友を持つことができ、毎日とても充実しています。

しかし、大学生というのは楽しい事ばかりではありません。まず勉強についてですが、私は理学療法士を目指してこの学部に入りました。家族に医療関係者がいることもあり、理学療法士になる事は昔からの夢でした。あまり勉強が好きでない私でしたが、勉強すればするほど夢に近づいていると思うと不思議とやる気が出ました。私が勉強に火



### 新しい教育実習

#### 「教職インターンシップ」 始まる

こども発達学部一期生が2年生となった今年から、美浜教育委員会の協力を得て、町内の2中学6小学校で「教職インターンシップ」を行っています。授業補助、掃除指導や、運動会、クラブ・委員会などの学級経営

の補助など、教師の仕事の一部を実際に体験します。期間終了後も、自主的に学校行事に協力し、教育実習の助走とも位置づけられる実地型教育の今後の展開が期待されています。

また、今年の長野県内では社会福祉学部の4年生が松本ろう学校で実習を行いました。

### 学長日誌 ～茅野市美術館を訪問～



9月13日まで茅野市美術館で開かれていた「寿齢讃歌」が盛況のうちに終わりました。来展者は千二百名余。撮影対象が八十歳以上の方、という条件のほかは、応募資格、経歴などの制限はなく、コンテストとは異なり作品の順位もなく、見る者の心を優しく温かいものにしていく、すてきな写真展でした。

9月2日には大学の加藤学長も同館を訪れ、この日参観された矢崎茅野市長（右側、現長野県教育委員長）ともども作品を鑑賞しました。

（加藤学長の作品は、元学長の諏訪先生の近影で、タイトルは「学長が学長を撮る」でした。）

(野沢北高校出身)

## あなたの町の高校訪問！

(学習会の様子)



また、この取組をきっかけに、大町市のゴスペルフェスティバルが始まりました。2000年の文化祭にゴスペルグループのVOJAを招き、市の文化ホールで一緒に「WE ARE THE WORLD」を歌った姿に感動した文化ホールの職員の方が、これをもちと市民に広めようと、毎年文化会館行事としてゴスペルフェスティバルが開くようになったのです。3年5組は、まさに一粒の麦でした。

この活動は毎年3年5組の伝統的な活動として代々引き継がれてきましたが、97年、学級減で3年5組がなくなるという事態に直面して、クラス活動から3年生の学年企画に、2000年からは生徒会の議論を経て、「アジア・アフリカ難民支援」として全校で取り組まれるようになりました。現在はアフリカのマリ共和国の人たちへの支援が中心になっています。この活動のパートナーとなっているのが、NGO（非政府組織）の「マザーランド・アカデミー」で、支援活動への協力のほか、同校で途上国の貧困問題の学習会などもサポートしています。

この年は、アメリカでも、マイケル・ジャクソン、ライオネル・リッチー共作の「WE ARE THE WORLD」が全米50人以上のアーティストの協力によって歌われ、米国だけでシングル750万枚の売り上げを記録する等、空前のアフリカ救済の高まりが起っていました。3年5組の活動はこうした世界的な活動の一つでもあったのでしょうか。活動は、当初は「愛のフロシキ運動」と呼ばれ、不用意に持っているフロシキを集めるものでした。現地に送るのに軽いうえ、荷物をまとめたりする他にも、帽子代わりになったり、多用途に使え、ということも注目されたそうです。

1985年の秋、大町北高校の3年5組では文化祭のクラス企画について、「…みんな協力できて思い出に残り、高校生活の最後として地域や社会へ目を向ける一つのきっかけになることをしたい」と、アフリカの難民支援に取り組むことにしました。



(物資の収集)

アフリカ難民を支援する 大町北高校

調べる - 1985年からの持続 - 支える

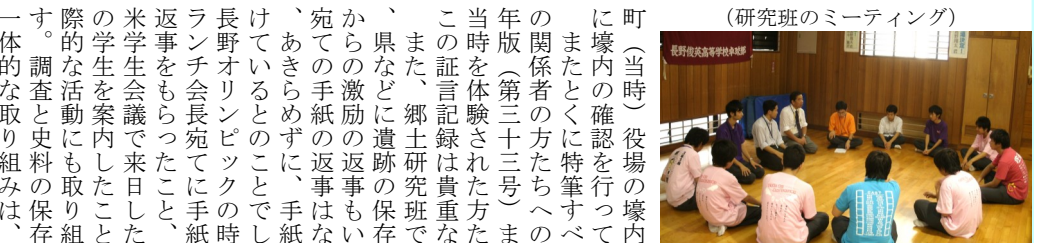
長野俊英高校 “松代大本営” を問う

歴史研究の一端に関わり、学び成長する、謙虚でたくましい高校生像をここに見ることが出来ます。

「  
・ 思い込みや先入観にとらわれないこと。  
・ 自分たちの考えを押し付けられないこと。  
・ 自分たちの考えを押し付けられないこと。」

「  
・ 物事を一面的に見ないで多面的に見ること。  
・ 学んだこと、という三点を示されました。」

「  
・ 自分たちの考えを押し付けられないこと。  
・ 自分たちの考えを押し付けられないこと。」



(研究班のミーティング)



(武道場での展示)

町(当時)役場の壕内地図も不正確で、高校生が実際に壕内の確認を行って、異同が確認されたのです。またとくに特筆すべきことは、高校生たちが、地元の関係者の方たちへのヒアリングを継続し、二〇〇九年版(第三十三号)まで発行に至っていることです。当時を体験された方たちの高齢化が進んでいる中で、この証言記録は貴重な史料となっています。

また、郷土研究班では、こうした調査活動をもとに、県などに遺跡の保存や活用を訴えてきました。知事からの激励の返事もいただいたそうですが、総理大臣宛ての手紙の返事はないけれど、あきらめずに、手紙を書き続けていくとのことでした。また長野オリンピックの時も、サマランチ会長宛てに手紙を送り、返事をもらったこと、最近も日米学生会議で来日したアメリカの学生を案内したことなど、国際的な活動にも取り組んでいいます。調査と史料の保存、活用の一體的な取り組みは、高校生の研究活動としては大変注目されるものです。

ご自身も第五代の研究班の班長であった教頭の土屋先生に、研究班の成果を伺ったところ、いろいろな研究を手がけてきたが、として、研究班が作製した「見学記念パンフレット」に記載されている、自分たちが学んだこと、という三点を示されました。

長野俊英高校(当時は篠ノ井旭高校)では、沖繩修学旅行の戦跡見学の体験をきっかけに、自分たちの足もとの地域の歴史を考えようと、「郷土研究班」が発足し、「松代大本営」を中心に地域の歴史を丹念に掘り起こしてききました。「松代大本営」は当時、一部の研究者を除いて、地元でもその正確な現状認識は行われていませんでした。松代

## 地域連携 - 経済学部/加茂ゼミの高遠調査 -



(調査を行う学生)

加茂ゼミナールでは、今回の調査結果をもとに、商店街振興にとつて効果的な宣伝方法は何かを検討するとともに、ゼミで企画した高遠観光物産展を大学祭において開催したいと考えています。研究成果は日本福祉大学経済学部のゼミ発表会(12月)で報告する予定です。

伊那市高遠商店街で聞き取り調査を実施

日本福祉大学経済学部加茂ゼミナールの3年生9人が、高遠町の商店で聞き取り調査を行いました。この調査は、「ゼミ研究課題「高遠町における商店の宣伝活動と商業振興」を検討するための資料収集調査で、9月7日(月)〜8日(火)の2日間で実施しました。西高遠地区に立地する商店を学生が訪問し、店の宣伝方法等について経営者から話を伺うインタビュー形式の調査です。伊那市商工会等の協力もあり、約40商店で話を聞くことができました。高遠の活性化に熱心な経営者が多いことに、学生は感動していました。

## 私の仕事 ～ 福祉大卒業生から ～

介護は人生最後の人権保障

飯田女子短期大学家政学与生活福祉専攻

教授 小笠原京子



私は、美浜キャンパス最初の入学生です。決してまじめな学生ではありませんでしたが、思いっきり楽しい大学生活を送りました。卒業後は、十二年間介護現場を経験し、現在は短大で介護福祉士の養成に携わっています。介護現場は人材不足に悩まされ、量的拡大が社会問題になっていきますが、併せて質の向上も重要な課題となっています。人間の尊厳を護り、個人を尊重するという社会福祉の理念に基づき、老いや障がいをもちながらも、その人らしく生きていくことを、可能な限り追及していくことができる人材を育てるのが目標です。私は現場出身の教員ですから、現場で得た経験が私にとつての財産だと思ひ、それぞれの時代の現場を語ることで、新しい時代を担う学生達に、人として最期の人権保障のあり方を伝えていきたいと思っています。

介護職を目指して入学してくる学生達は、金の卵です。今時の若者は、と言いますが、同じ時期の私は、介護職に進むことなど考えていませんでした。地味で大変だからと周りに反対されても、自分は介護福祉士になりたいという夢を持って入学してくる人に出会うと、私も元気がでます。「大変な介護現場に直面しても、先生の言つてたように、諦めないうで頑張るよ」という卒業生からのメッセージは、教育とは夢を語ることなのだと思ひました。

人との出会いは、その後の人生を左右します。どんな時にどんな人と出会つたのか、あの人に会えて良かったと思う人との縁を大切にしながら、自分も誰かの支えになれるように自分を磨いていきたいと思ひます。あなたに出逢えて良かった、そういう今日を保障していけるように「福祉は人なり」という日福での教えを胸に、諦めないで希望を語つていきたいと思ひます。

仕事のすべてが生活学習

城西医療財団

豊科病院  
(精神保健福祉士) 荒川豊



私は大学卒業後、精神科病院の医療相談室に入職し、精神保健福祉士(精神科ソーシャルワーカー)として現在も同じ職場に勤務しております。この仕事は、機関によって多少異なりますが、多くの精神保健福祉士が幅広い業務を担当していると思ひます。

私の場合、院内の業務として、受診相談、予診、入院手続き援助、入院の調整、カンファレンスやケース検討会の開催、他院との連携、生活保護や障害年金等の申請、医療費の減免調整、家族問題調整、他科への受診同行、社会制度(障害者手帳・成年後見制度・自立支援法等)の申請援助、苦情受付、院内家族会のサポート。院外の業務は、訪問看護や往診の同行、行政の会議への出席など。更に、関連施設(グループホーム)の運営も担当していますが、事業の運営面だけでなく、部屋のじゅうたん交換・テレビの配線・自転車のチェーン修理、などといった日常生活を支援する業務も多くみられます。

また、時には必要に応じて患者さんの生活に入り込んだ援助業務をすることもあります。例えば、近親者がいらつしやらない入院患者さんの老朽化した家屋の取り壊しと、その家屋の滅失登記の取りや援助。墓石の撤去とそれに伴う永代供養。長期入院中の患者さんと一緒に、空家になっている自宅の草刈り。密葬、離婚、相続と、何だか「オオゴト」な雰囲気ですが、その患者さんが「墓守する人が誰もいないから永代供養にしたい」「近所から苦情があつたから家の草を刈りたい」という「こうしたい」という需要に対して、私はお手伝いしているだけだと考えます。但し、その対象者が何らかの精神科疾病と障害をお持ちですので、そこに精神保健福祉士としての専門性がちよつぱり必要になっているのだと感じます。

とは言ひましても「墓石の撤去」一つとっても、私自身の生活では経験したことのないことであり、日々の様々な業務が、私自身を成長させていっていると感じています。また、課題が一步前進した時、患者さんと喜びを分かち合えるこの仕事に魅力も感じています。

## 福祉の現場から ～ 金沢施設長インタビュー ～

コムハウス

(正面玄関)

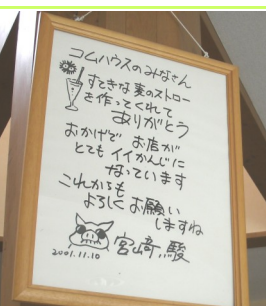


松本市の中心から南へ車で20分。静かな住宅地の中に、知的障害者授産施設「コムハウス」があります。利用者は23人、職員は非常勤スタッフを含めて14人。多様な「仕事」に取り組んでいます。

敷地の一角には県内各地から集められた木が生まれ、力仕事ができる人たちが、ここでキャンプ場の薪を作っています。間伐材のほか、高速道路の斜面の剪定木材なども再利用されます。



(麦ストロー)



このほか、全面介助の障害者の方も加わつている紙漉き(グリーンティング・カード)など、利用者の条件を考慮した取り組みには、職員の工夫、知恵が光っています。しかし障害者施設の現状は厳しく、利用者の工賃収入は月額で一万三千元ほど。金沢洋一施設長の「障害者の支援と生産・販売を一つのものとして活動を高めていきたい」という言葉が胸の中に響いてきます。

## 絵を見なくていい美術館？

ホントの美術館の楽しみ方！  
〜安曇野ちひろ美術館の場合〜

安曇野ちひろ美術館副館長 竹迫祐子



美術館や博物館という場所に、最も来ないのが、中学生や高校生という年齢層の人たちです。受験競争に明け暮れる日本の中高時代の忙しさや余裕のなさも含め、その理由はさまざま考えられますが、やはり、それらの場所が中高生にとって、魅力的な場所ではないということが大きいでしょう。

旧来、美術館も博物館も、楽しむというよりは勉強をする場という教養主義の傾向が強い場でしたし、今もその空気が流れている所があります。そんな状況を変えたい、安曇野ちひろ美術館は誕生しました。

「絵を見なくていい美術館」。ええ？じゃあ、何するの？と思われる方も多いでしょう。

雄大な北アルプスの山並みを背景に、目の前に広がる美しい安曇野の田園風景をぼーっと楽しんでいられるのもOK。デッキの寝椅子でおいしい空気をたっぷり吸って昼寝をするのもOK。カフェで地元の食材で作られたケーキやおやきをほおぼるのもOK。また、落語を聴きに来たり、コンサートを聴きに来たり…という楽しみ方もあります。毎夏休みには、地元の中学生ボランティアによる水彩技法を体験できるワークショップもあって、美術館を楽しむ方法は自在。そんな風にゆつくりとくつろいで、気が向けば、日本と世界の絵本のイラストレーションも堪能してください。現在、当館には二万六千六百点の作品を所蔵し、三月から十一月まで、四回の展覧会を行っています。中には、小さい頃に出会った懐かしいあの絵本の原画も…。

みなさん、絵を「鑑賞する」のは難しいと思っ

ていませんか？いつの時代の、どんな技法の、何という名前の画家の…等々を知っていないと、絵は鑑賞できないと。それは違います。絵を見る基本は、好き嫌いか？「ちよつといいなあ」と思ったり、「これ、何だかよくわかんない」と思ったりするところから、全ては始まります。絵は、どうぞ自由に見てください。例えば、「こんな模様のドレスが欲しいなあ」とかイメージを膨らませながら。

たけさこゆうこ  
日本福祉大学社会福祉学部昭和53卒



## インフォメーション

### ◆障害者施設のアート&クラフト展

社会福祉施設では多くの利用者が表現活動に取り組み、施設職員のサポートを得て絵画や書、陶芸、木工、手工芸を創作しています。このアート&クラフト展では松本圏域の施設を中心に施設の紹介と作品の展示及び各施設で作られている製品の販売を行います。この機会に障害者アートの世界にふれてみませんか？

○日時・10月3日(土)、4日(日)

10時〜16時

○場所・松本駅東西自由通路 入場無料

○主催・アート&クラフト実行委員会

○後援・松本市／信濃毎日新聞社／

市民タイムス／SBC信越放送／

NBS長野放送／TSBテレビ信州／

am長野朝日放送／

株式会社テレビ松本ケーブルビ

ジョン／FM長野／

松本平タウン情報 他

### ◆秋のオープンキャンパスのご案内

夏に続き、秋もオープンキャンパスを実施します。是非ご参加ください。

○美浜キャンパス(大学祭開催中)

11月7日(土) 9時45分〜16時

※松本発バスツアー開催予定

○半田キャンパス

10月25日(日) 9時45分〜16時

### ◆進学相談会のご案内

○日時・10月24日(土)、11月14日(土)

14時〜16時

○場所・日本福祉大学松本オフィス